

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒103-6060

住 所 東京都中央区日本橋二丁目7番1号

氏 名 丸紅株式会社

代表取締役 高原 一郎

(代理人) 国内電力プロジェクト部長 伊藤 直樹

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名称 又は名称	丸紅株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 川崎区水江町4番1号		
該当する事業者 の要	☒ 規則第4条第1号該当事業者		
	☐ 規則第4条第2号該当事業者		
	☐ 規則第4条第3号該当事業者		
	☐ 規則第4条第4号該当事業者		
	☐ 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	F	電気・ガス・熱供給・水道業
	中分類	33	電気業
主たる事業 の内容	発電事業者、特定送配電事業者		
事業者の規模	☒ 原油換算エネルギー使用量	17,401	k l
	☐ 自動車の台数		台
	☐ エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t - CO ₂

(第2面)

計 画 期 間	2019 年度 ～ 2021 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	地球温暖化対策関する当社グループの実施事項を以下に紹介しています。「環境マネジメントシステム」 https://www.marubeni.com/jp/sustainability/environment/management/

備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。

2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。

3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。

4 ※印の欄は記入しないでください。

5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

(1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

川崎クリーンパワー発電所の基本方針

当発電所の温室効果ガスの排出はガスエンジン発電設備が100%を占めている。
当該発電設備の発電電力は、一部は当発電所内で使用されるものの、大半が最終需要家に送電される。従い、生産数量（発電量）は最終需要家の電力要求によって決定され、随時その要求に従った運用を実施している。
斯様な背景のもと、温室効果ガスの排出量原単位を維持する為、定期的な保守点検を実施することによる経年劣化の抑制等が重要な課題である。

(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（PDCAサイクル）を行うための方針

- ①川崎クリーンパワー発電所機器運転時間に基づき保守点検計画を策定する。
- ②これに基づき前年度の運転時間等も鑑み、翌年度の詳細保守点検計画を立てる。
- ③年度内では、年1回以上実施の保守点検報告会にて、年度内保守点検の実施・結果を確認・共有していくと共に、翌年度以後の保守点検計画にも状況を反映する。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制

川崎クリーンパワー発電所

温室効果ガス管理組織はエネルギー管理組織と同じ者とする。

1. 管理組織

- ①リーダーは発電所長とする。
- ②メンバーは発電所長、エネルギー管理士、発電所員で構成する。

2. 温室効果ガス削減（省エネルギー）推進委員会

- ①委員長は国内電力プロジェクト部電源開発第一チーム長とする。
- ②委員は上記管理組織のメンバーと同一とし、事務局は発電所長とする。
- ③委員会は年1回以上開催する。
- ④当委員会にて、温室効果ガス削減（省エネルギー）推進に関する基本方針、目標、計画の立案審議決定及び実施を推進する。

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（（実）は実排出量を、（調）は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等	
基 準 年 度		2018		年度	
目 標 年 度		2021		年度	
基 準 排 出 量	(実)	1,661	(実)	(実)	
	(調)	1,962 t-CO ₂	(調)	(調)	t-CO ₂
目 標 排 出 量	(実)	1,661	(実)	(実)	
	(調)	1,962 t-CO ₂	(調)	(調)	t-CO ₂
削 減 量	(実)	0 t-CO ₂	(実)	(実)	t-CO ₂
内 訳	対策実施による削減量	(実)	0 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂
	上記以外の削減量	(実)	0 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂
削 減 率	(実)	0.0 %	(実)	(実)	%

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等	
原 単 位 等 の 活 動 量		発電電力量			
原 単 位 の 単 位		tCO ₂ /千kWh			
基 準 年 度 の 値		0.4477			
目 標 年 度 の 値		0.4477			
削 減 率		0.0 %		%	

ウ 目標設定に関する説明

発電所の定期的な保守点検を行うことにより経年劣化を抑制し、また運転方法の効率化により、現状の高効率運転を維持することを前提とし、上記の目標（現状維持）を設定する。 しかし乍ら、年間発電量が低下し一日の連続運転時間が短くなると、暖機運転時間比率が高くなり平均熱効率が悪化する等の避けられない事態があるので慎重に運用したい。 なお、川崎クリーンパワー発電所の場合は電気の使用に伴い排出するCO₂は使用者側で算出することとなるため、基準排出量及び目標排出量には反映されない。 当該事業所におけるCO₂排出量は以下のとおり。 (2018年実績) ・配分前：32,041ton ・配分後：1,662ton

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

--

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容 (別表第 1 から 6 等を参考に記載してください。)

計 画	①推進体制の整備 本社と川崎発電所を含めた委員会を設置し、推進体制を整備する。 ②川崎発電所 「定期的な保守点検を実施することによる経年劣化の抑制」 ・2000h の運転時間を基本として予定メニューの保守点検作業 ・日常点検をとおして不具合箇所の早期発見と適正な早期処置 ・日常点検に基づいて改善案を立案・実施・確認・処置のサイクル
第 1 年度	
第 2 年度	
第 3 年度	
計画期間における取組の評価 (第 3 年度の報告時に記載)	

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

特段の対策は無し。

特段の対策は無し。

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検 討 結 果
太 陽 光	○	用地確保が困難。
風 力	○	用地確保が困難。
バ イ オ マ ス	○	用地確保が困難。
未 利 用 エ ネ ル ギ ー		
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

計 画	地球温暖化対策の推進への貢献以外には特に無し。
第1年度	
第2年度	
第3年度	

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

計 画	1. 再生可能エネルギー電源の開発を推進します。 なお、現状としては次の事業を展開・開発しております。 ・風力は発電事業：国内1箇所（合計出力：約10,000kW）、海外3箇所（合計出力：約439,000kW）を保有しており、今後も風力発電事業を展開していく方針です。※上記出力は出資比率に基づく保有発電所のNET出力値です。 ・小水力開発事業：当社100%出資の子会社である三峰川電力㈱において、小水力発電事業を推進しております。 ・太陽光発電事業：国内10箇所（合計出力：約79,000kW）、海外3箇所（合計出力：約360,000kW）を保有しており、今後も太陽光発電事業を展開していく方針です。 2. 2021年3月期の目標として下記を設定しております (1) 東京本社・大阪支社のエネルギー（電気およびガス）使用量 目標値：2010年3月期比で10.5%削減 (2) 東京本社の廃棄物排出量 目標値：2011年3月期比で30%減 (3) 東京本社での廃棄物のリサイクル率 目標値：90%以上 (4) 東京本社での水道使用量 目標値：平成23年3月期比で3%減
第1年度	
第2年度	
第3年度	

7 基準年度のエネルギー起源CO₂の排出の量等の実績（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO₂の排出量

(実)	1,661	t-CO ₂
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

17,401	K L
--------	-----

ウ 事業所の数

1

(2) 事業所等単位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
丸紅株式会社 (川崎クリーンパワー発電所)	川崎市川崎区水江町4番1号	1,661 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂